

人は何で生きるか

トルストイの散歩道1



ロシアの文豪トルストイが書いた、民話です。短いお話の中に人間愛・信頼・慈悲といったテーマが描かれ、読み応えのある一冊です。巻末にトルストイ略年譜があり、トルストイの人生も知ることができます。

レフ・トルストイ／著
北御門二郎／訳
和田 誠／装幀
あすなろ書房(2006年)
本体価格900円＋税



名作

～a masterpiece～

沈黙



遠藤周作／著
新潮社(2003年)
本体価格514円＋税

「信仰とは何か」「神は存在するのか」に答える、キリスト教禁制の日本を舞台にした歴史小説。著者代表作の『海と毒薬』にも通じる、日本人の宗教観。テーマは重いですがどちらもとても読みやすく、印象深く残る本です。



野坂昭如／著
ポプラ社(2006年)
本体価格570円＋税

同タイトルのアニメ映画を観た人も多いことでしょう。

文字にすると60ページ余り。行間が少なく、ひっきりなしに続く言葉が、悲惨な戦争の情景を思い浮かべさせます。野坂さんは言います…「ここに書かれなかった戦争の真実を、君たちの力で自分のものにしてください」(あとがきより)。

目を背かないでください。これから大人になる皆さんが、戦争を考え、理解し、この言葉の持つ重みを次の世代へと引き継いでいくのです。



火垂るの墓



高村光太郎／著
新潮文庫のほか岩波文庫や思潮社現代詩文庫など多数所蔵。

中学生の頃、「道程」という詩に出会いました。その出会いは衝撃的で、身体から力がみなぎるような感覚を覚えました。それ以後「あどけない話」や「レモン哀歌」など数多くの詩を読み、高村光太郎の世界にひたっていたことを思い出します……。

高村光太郎詩集

これは、青銅器時代を背景にひとりの少年が戦士として成長していく、壮大な歴史小説です。風景や人物の心理描写が、細やかにそして丁寧に描かれ、昨今の小説とは異なった魅力を持っています。この夏、根気よく読んで欲しい作品です。



太陽の戦士

ローズマリ・サトクリフ／作
猪熊葉子／訳
岩波少年文庫(2005年)
本体価格760円＋税



ジュール・ヴェルヌ／作
岩波少年文庫など多数の出版社の本を所蔵。

海洋学者のアロナックスは太平洋の真ん中で所属不明の潜水艦ノーティラス号の船長ネモと出会う。船長と共に世界中の海を巡る旅に出た彼は海に心酔し、陸を捨てたこの男の中に陸の世界に対して激しい憎しみが宿っていることに気がついていく…。SF小説の先駆け作家ヴェルヌの代表作！

※『海底二万マイル』というタイトルでも出版されています。

海底二万里



名作

～a masterpiece～